

日川協通信 (118)

平成29年10月1日



一般社団法人全日本川柳協会
〒530・0041 大阪市北区天神橋二丁目
北一一一九〇五

電話 (06) 63352-2210
FAX (06) 63352-2433
振替口座 009700-913575

<http://www.nissenkyou.or.jp>

ご挨拶

理事長 小島 蘭 幸

平成29年6月18日、第41回全日本川柳2017年札幌大会が京王プラザホテル札幌で開催され出席者552名の盛会でした。通常総会で永年、川柳界の発展に尽力された大野風柳理事長が勇退され、私が新理事長に選任され、就任いたしました。重責ではありますが、副理事長、常務理事、理事、監事、常任幹事、個人会員、加盟柳社の皆さんと共に更なる川柳界発展のために誠心誠意取り組む所存ですので、どうぞよろしくお願い致します。

さて現在、全日本川柳協会では、平成30年版「全日本柳人写真名鑑」発刊に向けて全力で取り組んでいるところです。すでに各吟社には、案内と記載用紙が届いていると思います。誌上のご案内、会員の皆様への参加要請をよろしくお願い致します。なお、記載用紙が不足の

場合は事務局へご一報下さい。どなたでも参加出来ますので、一人でも多くの柳人をお誘い下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。

今年の11月12日には、奈良県・かしはら万葉ホールで、第32回国民文化祭・なら2017が開催されます。是非この機会に大会に出席して全国の柳人と交流を楽しんでいただきたいと思えます。

平成30年6月10日には、市民会館シアーズホーム夢ホールで第42回全日本川柳2018年熊本大会が開催されます。川柳の力で熊本地震で復興途上の熊本を盛り上げようではありませんか。くまモンも復興のシンボルの熊本城もあなたの参加を待っていると思えます。

ところで熊本大会以降の大会開催地が9月現在、まだ決まっています。冒頭に書いた札幌大会は三回目の大会開催とのことでした。まだ大会を開催していない県、一回、二回と実績のある県、自薦他薦は問いませんので是非開催していただきたいと切にお願い申し上げます。作句の秋です。ご健吟をお祈りします。

第41回 全日本川柳 2017年 札幌大会

(当日参加者 552名/事前参加者 1,825名/ジュニア参加者 4,761名)

文部科学大臣賞

戦争も平和も運ぶ大運河

新潟 尾形 尚武

参議院議長賞

神様と一緒に昼寝してしまっ

北海道 鈴木 厚子

川柳大賞

牛乳をぐくくりトライを決めに行く

広島 田辺与志魚

大会賞

露天風呂写楽の首が二つ三つ

北海道 岩崎 白雲

還らない島を園児も諳んずる

東京 播本 充子

飛び跳ねてはねて青空手に入れる

青森 松山 芳生

残照が煩惱の火を唆す

東京 洪川 溪舟

父と子を繋いで母という運河

徳島 高木 旬笑

かたつむりジャンプの夢は捨ててない

鹿児島 平瀬 芙蓉

焼かれても背骨まつすぐ大衆魚

台湾 杜 青春

断捨離のリストに載ったわが領土

鳥取 山本ふみ子

一強を崩せぬ歯がゆさの一人

富山 松井 泰子

母の目を見ながらミルク飲む未来

鳥取 松川 行男

地吹雪にちらちら妻の灯が見える

新潟 若林 柳一

ジュニア部門

北海道知事賞

草原を駆けるとつばさ生えてくる
北海道 美園小4 灯矢ひかり

札幌市長賞

くまだつて山こわされてこまってる
岩手 玉山小1 遠藤 未優

札幌市教育長賞

おこられてミルク飲みほす反抗期
愛知 金城学院中2 山本 千尋

北海道文化団体協議会会長賞

草原で耳をすまして命聞く
高知 高岡第一小6 矢野 瑞樹

全日本川柳協会賞

おとうさんぎゆうにゆうすごいのみつぷり
広島 佐方小1 柴山 夢華

ぼろぼろの絵本の熊はやさしい目
愛媛 小野小4 藤本さくら

教育新聞社賞

くまさんはくなんをこえていきまている
北海道 新琴似南小3 溝田 華

草原の風を感じて生きていく
兵庫 港中1 藤井 海斗

牛乳飲んでかいじゅうゴジラやつつけろ
愛媛 久米小4 富岡 あい

平成29年度（6月18日）

第2回理事会 東西合同常任幹事会 通常総会

場所 東京王子プラザホテル札幌

定足数の確認のあと議事録署名者選出

東西常任幹事会・総会 議案

議案第一号 平成28年度事業報告承認の件

議案第二号 平成28年度収支決算報告承認の件

承認の件

報告第一号 平成28年度監査報告の件

議案第三号 任期満了に伴う理事・監事選任および新常任幹事選出の件

報告第二号 全国大会表彰の件

その他

理事会 議案

議案第一号 平成30年度の題と選者の件

議案第二号 役付理事の選任の件

その他

右の議案案件について審議の結果、理事会
総会で承認された。

第10回川柳文学賞

正賞 「飯茶碗」 梅崎 流青

準賞 「残り火」 北田 惟圭

大会連続出席者

連続10回参加

小沢 淳・近藤 桃春

鈴木 公弘・田辺 進水

石田 耐・古野つとむ

古谷龍太郎

連続15回参加

阿部 弘子・中墓 一司

菱木 誠

連続20回参加

江畑 折男

連続25回参加

植木 利衛・植木 紀子

マスコミ柳壇の指導を10年以上行った者

若林 柳一・(做)脇坂 正夢

竹治ちかし

第13回80歳以上の功労者顕彰

塩見 一釜・横村 華乱

堀井 勉・小林 映汎

三宅 保州

第41回札幌大会選者

第一部 事前投句選者

「領土」 尾藤 一泉 選

「ジャンプ」 鈴木 公弘 選

「牛乳」 長谷川 酔月 選

「ちらちら」 田中 新一 選

第二部 当日投句選者

「運河」 橋爪 まさのり 選

「大衆」 梅崎 流青 選

「のどか」 菅原 孝之助 選

ジュニア部門

「熊」 高橋 みつちよ 選

「牛乳」 弘兼 秀子 選

「草原」 田中 螢柳 選

第二次選者

本田 智彦・津田 暹

植木 利衛・浪越 靖政

森中 恵美子

(順不同・敬称略)

一般社団法人 全日本川柳協会役員

(順不同・敬称略)

常任幹事

A 1 地区

池 さとし・辻 晩穂・塩見 一釜・浪越 靖政

A 2 地区

佐藤 古拙・高瀬 霜石・濱山 哲也・福土 慕情
大石 一粹・館岡 稲風・長谷川 醉月・渡辺 松風
熊谷 岳朗・西 恵美子・仁多見 千絵・山口 まもる
駒木 香苑・山田 昇

A 3 地区

江崎 紫峰・太田 紀伊子・矢野 義雄・酒井 青二
篠崎 紀子・高鶴 礼子・てじま 晩秋・西 瀧賢一郎
花道 歌子・松岡 恵美子・渡辺 梢・荻原 鹿声
篠田 東星・田中 寿々夢・原名 幸雄・及川 竜太郎
太田 ヒロ子・川崎 信彰・千葉 絹子・堀江 加代
宗吉 みちお・米島 暁子

A 4 地区

青田 川柳・安藤 紀楽・安藤 波瑠・いしがみ 鉄
上村 脩・大野 征子・こぎぞせいぞう 齊藤 由紀子
佐藤 孔亮・竹田 光柳・田中 八洲志・平井 熙
藤井 敬三

理事 長 小島 和幸 (蘭 幸)

副理事 長 竹本 正秀 (瓢太郎)

副理事 長兼事務 局長 本田 智彦 (智 彦)

常務理事 岡崎 守 (守)・赤井 二郎 (花 城)

粟石 隆子 (隆 子)・天根 利徳 (夢 草)

田中 新一 (新 一)

理事 佐藤 政彦 (岳 俊)・平田 朝子 (朝 子)

津田 暹 (暹)・松代 章弘 (天 鬼)

佐藤 美文 (美 文)・井原 満子 (みつ子)

植木 利衛 (利 衛)・島田 信一 (駱 舟)

江畑 哲男 (哲 男)・菅原 孝志 (孝之助)

西出 英子 (楓 楽)・鈴木 公弘 (公 弘)

秋田 恂 (じゅん)・矢澤 和女 (和 女)

監 事 大野 風柳・磯野 いさむ

相 談 役 河村 建夫・田辺 聖子・池井 優

顧 問 川村 恒明・林 えり子・塩見 草映

清水 厚実・近藤 勝重・久保田 半蔵門

河内 天笑・平山 繁夫

A 5 地区

荻原美和子・金子美知子・堀井 勉・渡辺 貞勇

今田 久帆・岩田 明美

A 6 地区

小林信二郎・大野風太郎・菅沼 匠・玉井たけし

山倉 洋子・石田 一郎

B 1 地区

坂下 清・岩原 茂明・酒井 路也・久崎 田甫

B 2 地区

荒川八洲雄・鈴木 順子・奈倉 楽甫・小林 映汎

鷺見 敏彦・宮村 典子

B 3 地区

小梶 忠雄・植野美津江・大楠 紀子・阪本 高士

土田 欣之・川上 大輪・三宅 保州

B 4 地区

赤松ますみ・池 森子・碓氷 祥昭・高田美代子

伊達 郁夫・田中 螢柳・西山春日子・森中惠美子

B 5 地区

上野多恵子・岡田 篤・久保田千代・長島 敏子

村上 氷筆

B 6 地区

稲村 遊子・新家 完司・松本 昌

B 7 地区

高木 勇三・浅原志ん洋・鴨田 昭紀・弘兼 秀子

増田マスエ・大場 孔晶・宮本 仙舟

B 8 地区

土橋 旗一・福本 清美・仙波 草苑・田辺 進水

小笠原 望・竹崎たかひろ

B 9 地区

梅崎 流青・古谷龍太郎・菖蒲 正明・西村 正紘

井上 万歩・永石 珠子・平井 義雄・田口 麦彦

松村 華菜・安永 理石・安部 征二・泉 談亭

進藤すぎの・麻井 文博・大田かつら・高松 呑海

句集を出したら

日川協・日本現代詩歌文学館

国会図書館に寄贈しましょう

正味財産増減計算書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	18,322	33,305	△ 14,983	
受取入会金	9,000	27,000	△ 18,000	
柳社入会金	6,000	21,000	△ 15,000	
個人入会金	3,000	6,000	△ 3,000	
受取会費	5,721,000	5,109,000	612,000	
理事会費	504,000	360,000	144,000	
常任幹事会費	2,928,000	2,880,000	48,000	
正会員会費(団体)	2,177,000	1,785,000	392,000	
正会員会費(個人)	112,000	84,000	28,000	
普及向上事業収益	15,003,380	15,427,602	△ 424,222	
誌上大会	2,946,000	4,100,161	△ 1,154,161	
電子出版	718,740	1,182,600	△ 463,860	
全国大会(事前)	1,825,177	1,889,000	△ 63,823	
全国大会(当日)	4,672,047	5,352,681	△ 680,634	
国民文化祭	1,944,000	0	1,944,000	
表彰後援事業	208,096	190,436	17,660	
選考協力事業	2,689,320	2,712,724	△ 23,404	
受取補助金等	5,700,000	0	5,700,000	
受取寄付金	100,000	510,000	△ 410,000	
雑収益	0	0	0	
経常収益計	26,551,702	21,106,907	5,444,795	
(2) 経常費用				
事業費	23,534,866	19,247,340	4,287,526	
給料手当	3,895,504	3,758,580	136,924	
臨時雇賃金	605,885	348,590	257,295	
退職給付費用	142,500	142,500	0	
旅費交通費	1,460,180	663,130	797,050	
通信運搬費	2,084,092	1,313,980	770,112	
支払手数料	11,180	2,484	8,696	
消耗品費	557,081	271,452	285,629	
印刷製本費	4,125,388	3,405,534	719,854	
光熱水料費	113,357	113,596	△ 239	
賃借料	1,185,153	1,185,153	0	
保険料	55,570	41,055	14,515	
諸謝金	3,044,460	2,160,640	883,820	
表彰後援費	1,042,139	487,965	554,174	
実行委員会運営費	4,672,047	5,352,681	△ 680,634	
借損・設営費	407,490	0	407,490	
雑費	132,840	0	132,840	
管理費	2,167,711	1,976,894	190,817	
給料手当	205,026	197,820	7,206	
退職給与費用	7,500	7,500	0	
福利厚生費	26,688	29,402	△ 2,714	
会議費	382,009	249,546	132,463	
旅費交通費	358,460	286,380	72,080	
通信運搬費	109,689	69,157	40,532	
支払手数料	864	756	108	
消耗品費	29,320	14,287	15,033	
印刷製本費	11,820	84,995	△ 73,175	
光熱水料費	5,966	5,979	△ 13	
賃借料	62,376	62,376	0	
保険料	0	0	0	
法定福利費	617,705	638,288	△ 20,583	
租税公課	70,000	70,000	0	
接待交際費	0	7,240	△ 7,240	
雑費	280,288	253,168	27,120	
経常費用計	25,702,577	21,224,234	4,478,343	
当期経常増減額	849,125	△ 117,327	966,452	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
退職給付取崩益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
(該当なし)	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期正味財産増減額	849,125	△ 117,327	966,452	
一般正味財産期首残高	5,705,189	5,822,516	△ 117,327	
一般正味財産期末残高	6,554,314	5,705,189	849,125	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	21,000,000	21,000,000	0	
指定正味財産期末残高	21,000,000	21,000,000	0	
III 正味財産期末残高	27,554,314	26,705,189	849,125	

監 査 報 告 書

一般社団法人全日本川柳協会
理 事 長 大野 英雄 殿

平成 29 年 4 月 24 日

一般社団法人 全日本川柳協会

監 事 天根利徳
監 事 秋田 恂

私は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの第 25 期会計年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類及び公益目的支出計画実施報告書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の損益及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認める。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

第10回川柳文学賞受賞作品

正賞 『飯茶碗』 梅崎 流青
準賞 『残り火』 北田 惟圭

2017年6月18日、北海道・京王プラザホテル札幌にて授賞式が行なわれ、平山繁夫選考委員をはじめ多数の川柳家にお集まりいただき、賞状、盾と副賞10万円が、受賞された梅崎流青氏に手渡されました。また、準賞を受賞された北田惟圭氏には賞状、盾、副賞3万円が手渡されました。第10回川柳文学賞は平成28年に発刊された句集のうち、申請のあった27冊を選考委員（久保田半蔵門・平山繁夫・雫石隆子・佐藤美文・林えり子（作家）5名（敬称略））が選考しました。

■ 総評 選考委員・平山繁夫

近年川柳文学賞応募作品は難解になったといわれる。それは短詩文芸の宿命で、その表現は説明的、叙述的であるより、暗示的飛躍的にならざるをえないこと、その上構成する言葉に複雑な意味の重圧を課せられているからである。即ち革新的な抒情の成熟を求めている。

第10回川柳文学賞選考結果は次の通り決定した。選考委員は昨年と同じく久保田半蔵門、平山繁夫、雫石隆子、佐藤美文、林えりこ（文面参加）、本田智彦（オブザーバー）

正賞 「飯茶碗」

一位推薦者 平山 雫石 佐藤各委員

評 平山繁夫

人が焦燥と混乱に囚われたとき、内に必然的に孤独と寂寥の状態が生

じる。同時に現実に対する批判的精神は、自己を律する厳しさと自己の真実を尽し、生きようとする作者の意識の成熟がある。自らの真実に生きるとは、人間性を抑圧するものへの怒りである。言葉は平明であるが、作品に張りりと重さがある。

評 雫石委員

第一位に推すのは、梅崎流青氏の「飯茶碗」である。第一句集から二十年の歳月を川柳ががっぷり四つに組み、その成果としての句集であろう。中に幾つかの小論が挿入されており、氏の川柳観を垣間見ることが出来る。川柳作品は抒情的で詩の言葉で紡がれているが、小難しくアブストラクトではない、この辺が現代川柳の主流であろう、と思う。

評 佐藤委員

柳歴三十八年のベテランである。そして二冊目の句集である。所属も川柳葦群とある。とつつきにくい作品が多いが、何度も読み返して理解すると、なるほど、味わい深い作品であることに気付く。27冊のトップに据えたのはポリウムも説得力になった。

二位推薦者 久保田半蔵門

評 久保田半蔵門

A5判ハードカバーの上製本である。川柳句集としてどこへ出しても恥かしくない装丁で出来上がっている。句の方は口語調・文語調ありで定型は守っている。表現方法も確かなものがあり格調も高い。章ごとの小文に彼の才を見る。句はやや才に溺れるところもあり、それが気にかかる。いずれにしても句集としては堂々立派なものがある。

準賞 「残り火」

一位推薦者 林 委員

戦火、震災、原発とのおぞましい現実を直視、記録を「川柳に託す」姿勢で作句なさっているが、詩心を失わずにそれが行間で窺えることで評価します。「疑いは白い根っ子の曼珠沙華」「シンブルに生きよと白い虹が出る」「白い風が吹く白いブルトニウム」「コスモスの白を味方に秋の空」とこの作者は白を好み、自身の色を見つけていることも一つの作家道です。「少子化にしたり顔するブロッコリー」のウィットもよい。

(以下略)

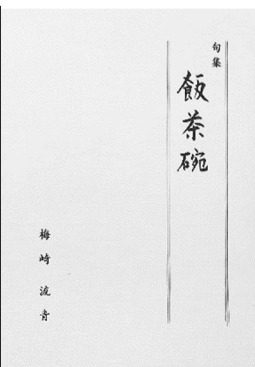
梅崎流青氏



■ 主な掲載作品『飯茶碗』

貧しさが良かった頃の煮凝りよ
父の本燃やして暖をとっている
副葬の本を探しているのだが
われ知らぬ妻が花屋の前に立つ
蟹赤く茹でてこの世に憂いあり
動かねば火にも当てよう竹の蛇
菜の花が咲いていたので降りた駅
飯茶碗人に貧しい手が二本
身の深部冬涛どうとどうと果つ
水餅の水濁らせて生きている
体温の残るブランコみな独り
人眠るみんな卵の形して

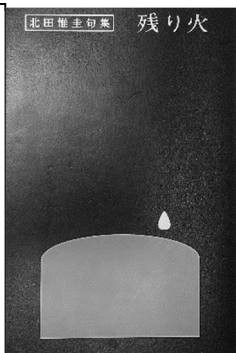
平成28年4月24日発行
A5版ハードカバー・228頁
大同印刷株式会社 定価2000円(送料310円)



■ 主な掲載作品『残り火』

蝶が舞う新月でしたあの日です
一本の柱だったか炉心だったか
疑いは白い根っ子の曼珠沙華
蟹のいた小島の磯や再稼働
風船に詰める四角な子守唄
2号炉の抗がん剤はないのです
炉心溶解 プロメテウス蘇生する
阿修羅には凍てた吐息の布告状
咲き初めにひらひらひらと舞う核種
湧く雲の忘れものあり夏が行く
ふわふわの明日がそこにありました
何気なく置かれたものが化けている

北田惟圭氏



平成28年3月11日発行
A5判変形ソフトカバー・126頁
私家本(非売品)

平成29年度 80歳以上の功労者略歴

(敬称略)

北海道 塩見 一釜

しおみ いちくま



昭和8年3月4日、北海道生まれ。

昭和49年、北海道川柳研究会創立、代表。

昭和42年、北海道新聞柳壇選者となり現在に至る。北海道川柳年度賞、北海道川柳功労賞受賞。句集に『根』『鳳凰』I・II『六華』上・下、文集『気がつけば川柳』。

福島県 横村 華乱

よこむら かつらん



昭和8年7月20日生

昭和31年「柏柳川柳会」設立同人。昭和36年「柳都川柳社」同人。昭和38年「よねやま川柳会」設立・同会長。昭和41年頃

から作句と併行し、評論風川柳エッセイ執筆活動開始。昭和42年「柏崎新生作家会」(総合芸術家集団)代表。平成5年「川柳人生社」結成・同主宰。平成12年全日本川柳協会常任幹

事。平成23年「川柳道の会」(郡山市)顧問。著書に『快私論現代川柳』『やさしく楽しい川柳の作り方』『川柳植物さんぽ』『川柳絵手紙乱筆の旅』葉文館 ほか。

神奈川県 堀井 勉

ほりい つとむ



昭和8年2月28日生

昭和34年 読売新聞武相時事川柳(中村富山人選)に投稿川柳を始める。

昭和37年 中野懐窓主宰。路吟社同人。平成15年横浜川柳懇話会会長、川柳路吟社副主宰。平成16年 神奈川県川柳協会会長。現在、神奈川県川柳協会顧問・川柳路吟社相談役・神奈川県新聞柳壇選者・全日本川柳協会常任幹事・川柳人協会副会長・東京都長屋書店子・NHK学園川柳講座講師。句集に『今日をさる』『恋のように』『川柳作家全集 堀井勉』など。

岐阜県 小林 映汎

こばやし えいはん

昭和6年5月24日生。昭和29年 岐阜川柳社入会。昭和41年 同会会長。平成27年 会長

退任後会員として現在に至る。



昭和50年 城西川柳社入会。平成2年 同会会長。平成27年 同会会長。辞任後顧問として現在に至る。

全日本川柳協会常任幹事・NHK岐阜文化センター川柳講座講師、岐阜市・岐阜県の文芸祭川柳審査会顧問、岐阜新聞所編集面接委員川柳講座講師。岐阜新聞選者、城西小学校川柳講座講師。著書に、『川柳作家全集・小林映汎』新葉館出版。

和歌山県 三宅 保州

みやけ ぼしゅう



昭和10年5月22日生

全日本川柳協会常任幹事・日本現代詩歌文学館振興会評議員・川柳塔社理事・和歌山県川柳協会会長・和歌山三幸川柳会

主幹。新聞、ラジオ等マスコミ川柳等の選評者数か所、川柳カルチャーの講師数か所等。著書に『川柳しませんか』『川柳塔社刊』『早分かり川柳作句Q&A』新葉館出版、『川柳作家全集・三宅保州』新葉館出版。(モットー)楽しみは頭ひねって五七五

平成30年版『全日本柳人写真名鑑』発刊について

日川協では全日本の柳人を網羅した『全日本柳人写真名鑑』を社団法人設立以来、5年ごとに発刊、好評を博してきました。

刊行にあたっては、出版委員会を中心として全日本川柳協会が組織をあげて取り組みますが、要は一人でも多くの柳人がこの企画にご参加くださることにあります。

資格は柳人であればどなたでも結構ですので、みなさま方には一人でも多くの柳友をお誘い合わせのうえ、この画期的な名鑑に名をつらね、貴名とその作品を日本川柳史に残されるよう、お勧め申し上げる次第です。

一般社団法人 全日本川柳協会

理事長 小島 蘭 幸

出版委員長 西出 楓 楽

一、書名 『全日本柳人写真名鑑』平成30年版
二、体裁 A5判・約200ページ
本文アート紙・美装本

三、刊行 平成30年3月(予定)全参加者に年鑑を一冊、送付いたします。

四、原稿 ①姓・柳号 ②本名 ③生年月日

④職業 ⑤所属柳社 ⑥住所

⑦電話・FAX ⑧メールアドレス

⑨自選作品3句(平成25年以降の作品)

⑩顔写真(縦横約5cmの近影、写真の裏に氏名を記入)

五、締切 平成29年12月11日(月)当日消印有効

六、書籍発送の為、住所は必ずご記入の上、個人情報に支障のある方は、備考にその旨お書きそえ下さい。

七、参加費 4000円(振替または小為替で申込時に納入してください)

八、申込先 〒530-0041 大阪市北区天神橋
2丁目北1-11-905

一般社団法人 全日本川柳協会

TEL (06) 6352-2210

FAX (06) 6352-2433

郵便振替口座 009701913575

今後の全国大会予定

▼熊本

平成30年6月10日(日)

熊本市会館

シアーズホーム夢ホール

今後の国民文化祭予定

▼奈良

平成29年11月12日(日)

かしはら万葉ホール

▼大分

平成30年10月21日(日)

別府市公会堂

今後のねんりんピック予定

▼富山

平成30年11月4～5日

高岡市内

(元常務理事・元常任幹事)

平成29年6月以後(敬称略)

謹んでお悔み申し上げます。

逝去日	役職	お名前	年齢
6/4	元常任幹事	松本初太郎	78
6/9	元常任幹事	竹森 雀舎	88
6/28	元常任幹事	杉野 睦朗	85
7/1	元常務理事	大木 俊秀	86
9/9	元常任幹事	會田規世児	86

第11回 川柳文学賞募集

日川協では川柳の普及向上を目的として、毎年1年間に出版された川柳個人句集のうち、もともと優れた川柳句集に対して「川柳文学賞」を授与しています。

平成29年1月から12月末日までに刊行した句集6冊及び同句集の概要説明書で平成30年1月末日までに当協会の「川柳文学賞」選考委員会宛にお送りください。沢山のご応募お待ちしております。

編集後記

★去る6月18日の札幌大会で新しい役員が総会で承認された。(P4参照)新理事長の挨拶(P1参照)のもと気分を新たに船出した。

★「川柳」16世の継承者について二人の候補が名乗りを上げているが、日川協として自分、静観することにした。

★川柳の全国大会(日川協・国民文化祭)も年を追うごとにその母体となる地域の動きが鈍く、なかなか決めにくくなっている。何らかの方法で継続を考えねばならない。ご意見を事務局まで申し出てください。

★11月12日の国民文化祭なら(檀原市)は節約型の大会になりそうで、実行委員会と協力して成功に導きたい。

(事務局長 本田智彦)